

小豆島

瀬戸内の風土が育んだ「食べ物づくり」と「島の自然」を巡る島へんろ …島の人たちと語り、手づくりマップで歩く小豆島

小豆島は食べものづくりの産業が盛んな島。採石、塩業、海運で栄えた歴史と小雨温暖な気候は「醤油」「素麺」「ごま油」「オリーブ」などの食品産業を育み、全国シェアの多くを占める地域産業になりました。紅葉や新緑の寒霞渓、美しい海岸線や夕陽など、変化に富んだ自然景観豊かな島でもあります。小豆島のものづくりの様子やそれを育んだ町、そして自然景観をご覧頂き、その一部をぜひ体験いただきたいと思います。これらの産業や観光などに従事する島の人たちを中心に生まれた「楽迎員」がご案内します。



★まち歩きのための道具

各港や観光施設では地域の様々な情報を掲載したマップが入手できます。これさえあれば一人でまちに出かけても大丈夫。食べ物屋さんや地元で話題の場所にも行くことができます。わからなくなったら島の人に尋ねましょう。観光協会のホームページもチェックしてください。

「食へんろ」食のものづくり体験（組み合わせによりコース時間調整可）

★①醤油とろみ「醤の郷」

醤油づくりに欠かせないのは、土壁、木桶、柱などに棲む微生物たち。醤油蔵にはたくさんの微生物が棲み醤油づくりを手伝っています。醤油蔵の屋根や壁は、栄えるほどに黒く色づく独特のまち並みをつくり出しています。工場見学、もろみ混ぜ体験などができます。

★佃煮（「醤の郷」見学と同じコース）

海草、魚介類、山菜、野菜などあらゆる佃煮を生産し、全国トップシェアを誇っています。黒豆を炊いて乾燥させた菓子や揚げせんべいもあります。

★素麺

素麺づくりに必要不可欠なごま油とたっぷりの太陽の陽射しが欠かせません。素麺づくり見学や箸分け体験ができます。

★オリーブ

「日本のオリーブ栽培発祥の地」として知られる小豆島。9月末から11月中旬までに収穫された実は塩漬になります。11月上旬から12月までに収穫された熟した黒紫色の実からはオイルを絞ります。収穫シーズンには、収穫体験や搾油見学、製品工場見学ができます。

★ごま油

ごま油は全国生産量の50%近くが小豆島で生産されています。土庄港付近では「ごま」を加工する良い香りが漂っています。工場にはごま油づくりについての展示室があり、製造工程などを説明してもらえます。

★ゲタとイダゴの一夜干し

めめりと隣を取り除き串を通したゲタは、潮風と太陽の光で2日間ほど波止場に干されます。小豆島の冬の味、11月中旬から2月末頃までがシーズンです。イダゴやカレイの干物もあります。小江漁港に行けば天日干しの風景を見ることが出来ます。漁師さんと会えば、直接購入も可能です。



醤の郷



素麺



オリーブ加工



ゲタの天日干し

専門ガイドが案内する「海と山のエコツアー」

●島の自然を満喫できる軽登山、ハイキング（2～3時間コースから）高いところから眺める山並みと瀬戸内海の風景は最高。海に沈む夕陽は特に素敵。ガイドが用意してくれるへんろ着束を着て、山岳霊場に登ってみよう。弁当の手配もできます。

●シーカヤックで海のお散歩（3月後半～11月、9時～12時、13時30分～16時30分、終日コース 有り）シーカヤックで海から島を眺めながら島巡り。前島一周、三都半島など各種コースがあり、世界一狭い海峡の土洲海峡通り抜けは人気のルートです。ワカメの季節には春の香りの料理もできます。



山頂からの眺望



海から見る小豆島

ちょっと足を伸ばせば…

★②二十四の瞳映画村

（サイクリングなら3時間、岬巡りバスで2時間コース）昭和62年に再映画化された「二十四の瞳」のロケに使われたオープンセット。昭和初期の家並みが再現されています。

■行き方：「オリーブ園」からバスで「二十四の瞳映画村」、又は、草壁港からレンタル自転車を利用



映画村



寒霞渓

★③紅葉と新緑の寒霞渓

火山の噴火と、風雨の侵食により削り上げられた岩山に1000種を超える植物が自生しています。海を臨む美しく険しい渓谷が色付くのは10月下旬から12月上旬。ロープウェイでの登山やハイキングもオススメ。

■行き方：「土庄港」から路線バス、3便/日（運転日確認）・840円、or草壁港から路線バス7便/日（4便は通年運行）・350円、ロープウェイで山頂へ。

●夕陽のスポット

小豆島は「日本の夕陽百選」にも選ばれた夕陽のとっても美しい島。宿が決まれば、小豆島観光協会や宿でその時期1番美しく見える夕陽スポットを教えてください。



夕日



レンタルバイク

●レンタルバイクで島を一周

外周約130kmの小豆島は起伏があるが道路状態は良好です。島一周海岸ルート、寒霞渓など山を抜けるスカイライン。バイクのツーリングコースには最適です。風を感じながらのサイクリングもお奨めです。

●問合せ先

■（社）小豆島観光協会：電話（0879）62-5300

●交通機関連絡先

■高松から／四国フェリー（株）・小豆島急行フェリー（株）：電話（0879）62-0875

／国際フェリー（株）：電話（0879）75-0405

／内海フェリー（株）：電話（0879）82-1080

■岡山から／両備運輸（株）（両備フェリー）・四国フェリー（株）：電話（0879）62-0875

■小豆島バス（株）：電話（0879）62-1210

●コインロッカー情報 高松駅（香）



※上記の交通機関の便数・運賃は2006年2月1日現在のものです。